

科目名 (英語表記)	居住熱環境学(Dwelling Thermal Environment)						ポートフォリオ
学年・学科	2年・建築学専攻		単位・期間	選択2単位・前期週2時間(授業時間30時間) (自己学習時間60時間)		<学生が記入する上での注意事項>	
担当教員	小原 聡司	連絡先	建築学科棟2階 第7研究室	オフィス アワー	月曜16:20~	【授業計画の説明】 枠内に○か×かを記入すること。	
【授業目的】 本科では内容が高度として扱わなかった建築環境工学各分野の重要項目から、主として室内熱環境の形成に影響する日射・伝熱・換気・体感に関する項目をピックアップして教授することにより、熱に関連した事項についてより広い知識をつかせる。また教授項目に関連した演習を行い、学習した理論の実際への応用について理解を深めさせる。							
【履修上の注意】 講義内容の理解度や応用性を高めるため、ほぼ毎時間、作図や計算機を使った例題や演習を行うので、常に目盛り付き定規及び計算機(できればプレイバック機能付き電卓かポケコンが望ましい。)を持参すること。							
【事前に行う準備学習や自己学習】 準備学習として本科で使用した教科書やノートを使って、建築環境工学と建築設備の各種用語及び定義の予習しておくこと。なおほぼ毎回の課題演習は自己学習の事後学習として評価する。							
【達成目標】 1)熱移動や室内熱負荷に関する概念・用語を説明でき、定義式を展開できること。 2)関連する図表類や計算式を自ら選び、必要な諸値を適切に設定できること。 3)複雑な手計算(関数電卓使用)である程度の予測や見積り計算をある程度正確にできること。 4)室内の熱移動に関する総合的な概念を説明でき、必要な情報を自ら入手できること。							
【試験の結果】定期試験の点数を記入し、試験全体の総評をしてください。(記入例)ファラデーの法則に関する基礎問題はできたが、応用問題が解けず、理解不足だった。							
【総合達成度】では、【達成目標】どおりに目標を達成することができたかどうか、記入してください。							
ルーブリック評価の【自己評価】では、到達したレベルに○をすること。							
<教員が記入する上での注意事項>							
<b>学 習 到 達 目 標</b>							
ルーブリック評価	理想的な到達レベルの目安 ( A )	標準的な到達レベルの目安 ( B )	未到達レベルの目安 ( C )	ルーブリック評価とは設定された到達目標の合否および到達レベル(到達度の程度)を示す基準です。			
評価到達目標項目1	熱移動や室内熱負荷に関する概念・用語を十分説明でき、その際に定義式を自由に展開できること。	熱移動や室内熱負荷に関する概念・用語をある程度説明でき、必要に応じて定義式をある程度展開できること。	助言があれば熱移動や室内熱負荷に関する概念・用語を最低限説明でき、必要に応じて定義式を最低限展開できること。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目2	関連する図表類や計算式を正確に自ら選び出し、必要な諸値を完全に設定でき、他の人にも指導できること。	関連する図表類や計算式をほぼ正確に選び出し、必要な諸値をある程度設定できること。	助言があれば関連する図表類や計算式を選び出し、必要な諸値も最低限設定できること。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目3	複雑な手計算(関数電卓使用)で正確に予測や見積り計算ができ、他の人にも指導ができること。	通常の手計算(関数電卓使用)である程度正確に予測や見積り計算ができること。	助言があれば簡易な手計算(関数電卓使用)で最低限の予測や見積り計算ができること。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
評価到達目標項目4	室内の熱移動に関する総合的な概念を完全に説明でき、必要な情報を完全に入手したり、他の人に指導できること。	室内の熱移動に関する総合的な概念をある程度に説明でき、必要な情報をある程度入手できること。	助言があれば室内の熱移動に関する総合的な概念を最低限説明でき、必要な情報を最低限は入手できること。	【自己評価】 A ・ B ・ C			
<b>到 達 度 評 価 ( % )</b>							
評価方法	定期試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品実技	その他	合計
指標と評価割合							
総合評価割合	67		33				100
知識の基本的な理解							
思考・推論・創造への適応力	33		16				49
汎用的技能	34		17				51
態度・志向性(人間力)							
総合的な学習経験と創造的思考力							
成績の評価方法について ・定期試験(中間試験(1回)・前期末試験)を2/3、演習課題の合計点を1/3で重み付けして100点満点で評価する。							
評価基準について ・演習課題は作品の正確さ・美しさ・工夫を考慮して1回10点満点で次のように記号を点数換算している。A+=10点,A=9点,A-=8点,B+=7点,B=6点,B-=5点,C+=4点以下。再提出は8点満点。提出遅れは適宜減点する。 ・学年成績60点以上を合格とする。							
【教科書】 田中俊六・武田仁他2名著, 最新建築環境工学改訂4版(井上書院) ISBN978-4-7530-1757-7							
【参考資料】 木村健一編著, 建築環境学1,2(丸善) ISBN4-621-03706-4							
【学習・教育目標・サブ目標との対応】(低学年)				【JABEE基準との対応】			
【学習・教育到達目標との対応】(高学年・専攻科)				(B)			
				(c)(d)			

